

苫総福第 238 号
令和 7 年 4 月 28 日

内閣総理大臣 殿

苫小牧市長 金澤 俊

アイヌ施策推進地域計画事後目標評価報告書

アイヌ政策推進交付金事業実施要綱（令和元年 9 月 6 日付け府ア推第 5 号）第 3 条第 3 項に基づき、アイヌ施策推進地域計画の事後評価結果について別紙のとおり報告します。

アイヌ施策推進地域計画事後目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	目標年度
北海道苫小牧市	苫小牧市アイヌ施策推進地域計画	令和 6 年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) B / A	備考
講習会参加者数	162 人	132 人	81%	
美術博物館来館者数	36,500 人	29,350 人	80%	
生活館利用者数	2,500 人	1,853 人	74%	

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況	備考
講習会参加者数	目標を下回った	
美術博物館来館者数	目標を下回った	
生活館利用者数	目標を下回った	

(コメント)
①新型コロナウイルスの影響もあり、計画策定時に設定した参加予定数より少ない数で実施することとなり、感染状況が収まった後も、講師の希望等を鑑み、予定数より少ない数での募集となったことから、講習会自体は定員を超える応募が多かったものの、目標値には届かなかった。
②目標値には届かなかったものの、新型コロナウイルスの影響で一時期落ち込んだ来館者数は徐々に回復しつつある。来館者から「アイヌ文化についてより深く理解できた」との声もいただいております。今後も多くの方に来館いただけるよう努める。
③新型コロナウイルスの影響もあり、アイヌ関連団体や近隣企業などの使用頻度が減り、利用者数についても伸び悩んだが、整備後の生活館に対し、利用者から「使いやすくなった」との声もいただいております。引き続き適正管理に努め、来館者増に努める。

2. 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

事業の進捗状況	事業実施主体
①アイヌ文化伝承事業として、各種アイヌ関連講習会を実施し、より多くの市民にアイヌ文化に触れる機会を創出することができた。各講習会とも定員以上の申込があり、市民の認知度向上や、関心の高まりは感じたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、最終的には目標値を下回った。	苫小牧市
事業の効果	
①刺しゅう、伝統工芸、木彫など、アイヌ民族による手仕事を中心に講習会を実施したほか、完成品を苫小牧市で実施している市民文化祭等で展示することにより、講習会参加者はもちろんのこと、より多くの市民の方にアイヌ文化に触れる機会を創出することができた。	
事業の進捗状況	事業実施主体
②-1美術博物館常設展示室「アイヌのくらし」更新 ・苫小牧市美術博物館「アイヌのくらし」展示室において、ユーカラ音声装置を刷新し、画像機器を導入したほか、カラーコルトン(透過式カラー写真フィルム)をより鮮明な画像と入れ替えた(R2)。 ・現在のカラーコルトン(透過式カラー写真フィルム)使用の「蝦夷風俗十二ヵ月屏風」をタッチパネル式デジタル仕様に変更するとともに、「蝦夷島奇観」など新たな画像メニューを組み込んだ(R3)。 ・北海道指定有形文化財に指定されている「アイヌの丸木舟と推進具」を紹介するコーナーで現在展示している映像展示機器をボタン操作からタッチパネル式デジタル仕様に変更し、現在映しているプログラムについて調整を行った(R4)。 ・「アイヌの丸木舟と推進具」の映像デジタル展示に、3Dスキャン映像や英語・中国語解説を加えた(R5)。 ・来館者が触ってアイヌ文化を体感できる複製資料(木綿衣)を5点製作した(R6)。 ②-2 歴史講座 ・企画展にあわせて「発掘調査からわかるアイヌ文化」として、平取町講師を招き、遺跡の発掘調査からわかるアイヌ文化について講演を行った。また、「ガラス玉がかたるもの～丸い小さな世界から～」として、札幌国際大学から講師を招き、北海道におけるガラス玉について由来や形状、色の変化について講演を行った(R2)。 ・昨年度に引き続き「発掘調査からわかるアイヌ文化」として、伊達市から講師を招き、遺跡の発掘調査からわかるアイヌ文化について講演を行った。また、平取町民芸組合から講師を招き、「アットゥシ織りの世界」としてアットゥシ織りの手法を実演とあわせて講演を行った(R3)。 ・企画展にあわせて「アイヌ民族の刀帯 その変化と復興の歩み」として、北海道博物館から講師を招き、講演を行った。また、「私が聞いたアイヌ	苫小牧市

の物語」として、北海道博物館から講師を招き、講演を行った(R4)。 ・弘前大学から講師を招き、タマサイ(首飾り)に付属するガラス玉や古銭から時期区分を明らかにする研究に関する講演を行った(R5)。 ・千葉大学から講師を招き、「市民がはじめてアイヌ語に触れる」をテーマに、言語学におけるアイヌ語の特徴や日本との歴史的な関わり、アイヌ語をとりまく現在の状況について講演を行った(R6)。	
事業の効果	
②-1 展示内容の刷新やデジタル技術の導入、触れることのできる資料の製作を通じて、国内外から当館へ訪れる来館者が多角的にアイヌ文化を感じ、理解できる場を創出した。 ②-2 各種講座を開催することで、市民が地域の歴史やアイヌ文化を学ぶ機会を提供できた。	
事業の進捗状況	事業実施主体
③アイヌ文化活動拠点である生活館の整備事業として、苫小牧市生活館の全館 LED 化及びトイレの洋式化を実施(令和 2 年度及び 3 年度)し、利便性の向上を図ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数は目標値を下回った。	苫小牧市
事業の効果	
③全館 LED 化により、講習会や、和室を使用した手仕事の際も「手元が見やすくなった」という声があるほか、トイレの洋式化についても高齢の利用者から「トイレを安心して利用しやすくなった」と好評の声が多く聞かれた。	

3. 今後の方針等

(コメント)
①新型コロナウイルス感染症の影響から、規模縮小などしながら実施してきたが、各講習会とも定員を超える応募があったことから、今後も講習会を継続していくとともに、過去のアンケート等を参考にしながら、内容の充実に努めていきたい。 ②展示更新や所蔵資料のデータベース作成、イベントや講座を実施するなどして、地域に存するアイヌ文化を発信し、アイヌ民族の歴史や文化に対する市民の理解を深めるとともに、内外におけるアイヌ関連の交流活動を活発化させ、アイヌの人々が誇りを持って生活し、その誇りが尊重される地域社会の実現に努めていきたい。 ③今後も施設の適正管理に努めながら、アイヌ民族の方々と地域住民の交流の場として活用されるよう努めていきたい。